Ⅶ. 山形県の農村地域における育児環境の実態と母親の意識について

大　戸　敬　子（山形県村山保健所）

はじめに

農村地域における育児の実態についてのアンケート調査も今年で3年目になり，今年度は特にこれ迄の調査結果を検討し，出産以前の妊婦の環境，父親の育児に対する考え方にも問題があると提起され，これらに重点をおいて調査した。

地区の概況

当保健所管内は山形県のほぼ中央に位置し3市1町，人口108,799人，世帯数25,393戸，稲作，果樹を中心の農業地帯であるが一戸当りの耕作面積が少なく，近年の企業進出により近隣の工場に勤めに出る兼業農家が多い。又県内でも有数の豪雪地帯でもある。

昭和56年の出生数は1,456人，出生率13.4%であり，ここ数年同様の数値である。

調査対象・方法

生後2～9カ月の乳児をもつ母親715名，調査期間は昭和57年9月～11月，調査方法は母子保健推進員が乳児のいる家庭を訪問し母親に記入してもらい，回収した。

調査結果と考察

(1)　児の環境

当保健所管内は三世帯家族が多く，家族人員6人以上が60%を占め，祖母同居ありが平均84%で，ある市では92%である。

両親の職業は，父農業18%，母11%であり，外に勤めに出る父70%，母50%でありこの割合は年々除々に増加傾向にある。家事専業の母は31%である。

日中の育児担当者は祖母60%，母36%であり，おばあちゃん育児が多い。

(2)　児の状況

こどもは二人というムードが定着していた以前と比べて，最近第3子の出生が少し増えているが，第1子42%，第2子41%，第3子以上が17%で全国の状況とあまり差はない。

児の栄養方法は図1のように，機会あるたびに母乳の重要さを指導しているにもかかわらず改善されない。ミルクを与える理由として，母の仕事別を問わず，母乳が出ない，母乳の出が悪いが50～60%もあり，問題である。

又，妊娠した時の両親の気持については図2，図3のとおりで大半が望ましい状態であるが，母の喜びととまどいが多いのが目立つ，これはやがて来たるべき出産，育児を考え手放しで喜べない，母としての自覚，責任感の表われではないだろうか。

(3)　母親の意識と児のふれあい

妊娠中特に気をつけたことは，食事，休養，睡眠，薬をのむ時医師の指示に従った等，一般的なことについては50～60%が注意している。喫煙の習慣ありは5.4%で，県の女性喫煙率15.4%より低いが，喫わないよう気をつけたものは，そのうち60%である。

母と子の目と目があったのはいつかについては，新生児は目が見えないものという常識が一般的であったことも影響して，気にとめなかったのでわからないが63%であり，出生後10日以内にあったものは7.6%であった。

外に勤めに出る両親が多い地域の特性から，児への直接のふれあいをみてみると，朝の育児は図4のとおりで，父は祖母同居ありなしにかかわらず各項目について差はなく，児とのふれあいは半数以上にある。母は育児の最低限である授乳，おむつ交換等は祖母同居のあり，なしにかかわらず80%以上が行なっている。

夕方の育児は図5のとおりで，祖母同居なしの父は各項目にわたって10%前後多く当然のこととうなづける。

母親はこのような接触の現状をどう考えているだろうか。充分接触していると思うが49%，忙しく接触が少ないと思う33%，祖母や他の家族がしてくれるので楽だが15%もあり，母親の意識に問題があると考えられる。

又，母は父の育児への協力度をどのようにみているか，よく協力してくれる３６％，普通４７％，もっと協力してほしいが１７％あった。

(4) 妊婦の環境

産前休暇を４週以上とったものは４５％，全然休まないが８％もあり意外である。

産後休暇は６週以上が８５％あるが，４週未満が1.７％あった。

中小企業の多い当管内にあって，これら休暇に対する職場の理解度はどうかをみてみた。とりやすかった８７％，とりにくかった１３％あり，その理由は，仕事が忙しく前例がない，少人数のためやりくり困難，休職を言いわたされた，退職した等であり，必ずしもよい環境とはいえない。

問題点と今後の課題

(1) 母親の意識を高める。

外に勤めに出る母が年毎に除々に増加しているが，今後も増加することが予想される。母親が育児の主役であることを認識させ，更に理解を深めさせる必要がある。

特に母乳を与える母親が前回調査時より減少していることを重要視し，これ迄以上に母乳の大切さを指導していかねばならない。

(2) 衛生教育の充実

現在実施されている妊婦のための母親教室の内容の充実をはかると共に，祖母の育児担当者が多い当管内は前回の本報告では，祖母を対象にした育児学級は３市１町のうち１町のみであったが，現在２市１町で実施している。内容，期間も地域の実状に合わせて実施しているが，更に検討し内容の充実をはかる必要がある。

又，父親に関する項目を初めて調査したが，児との接触がないのが１０％前後あることに注目し，父親の意識改革の方法を考えていかねばならない。

(3) 妊婦の環境改善

産前，産後休暇及びこれら休暇についての職場の理解等も初めての調査であるが，必ずしもよい環境ではない。

これは保健医療関係者だけでは解決出来ないと考えられるので，広く各方面に呼びかけ，地域全体の問題としてとりくむ必要がある

ま　と　め

農村における育児に関するアンケート調査を３年間にわたり実施したが，その全貌が明らかになった。母子相互作用研究班に参加し，調査結果にもとづき検討会をもち，それを地域に還元してきた。その効果をみる時は，母子保健の統計上の数値には表われないが，母と子の絆，心のふれあい，愛着行動を合いことばとして私共は推進してきた。母子保健推進員活動目標に，従来の３目標に加えて，昭和５７年度より「児の心をそだてよう」が加えられたのも成果の一つである。

これからは，３年間の資料をもとに広く地域の人々に実態を知らせ，問題意識をもってもらい，地域全体で考えるよう努力していくつもりである。

〔添付資料〕

1. 育児についてのアンケート調査実施要領
2. 育児に関するアンケート用紙
3. アンケート調査結果　№１　　１頁～　９頁
4. アンケート調査結果　№２　１０頁～１４頁

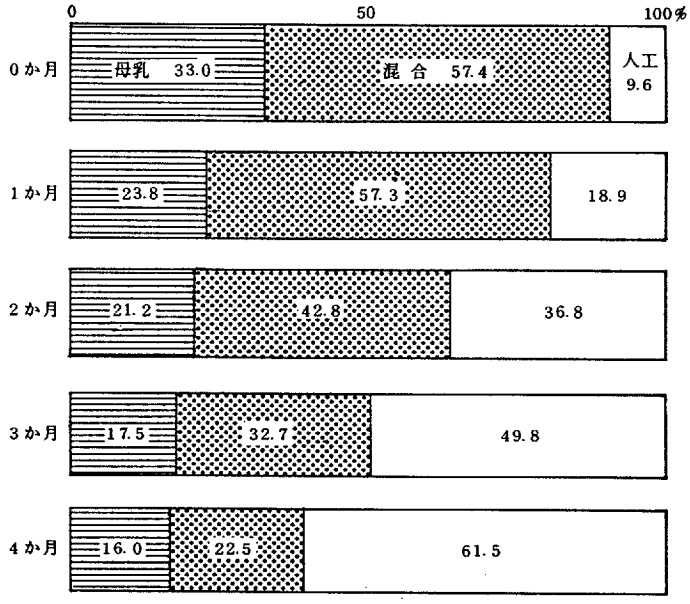

図 1　児栄養方法

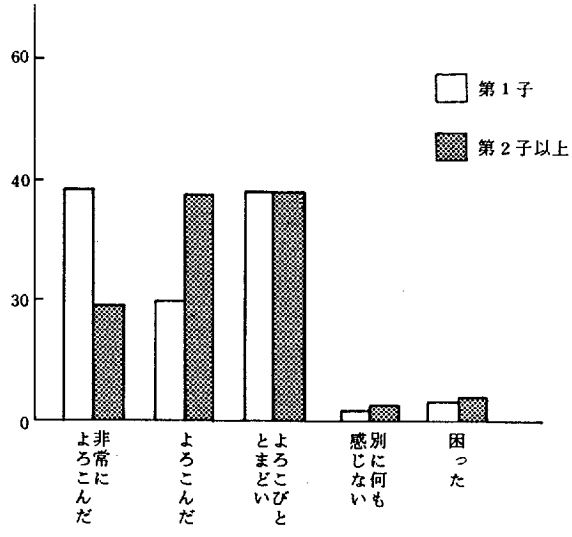

図 2　妊娠とわかった時の気持 ····· 母親

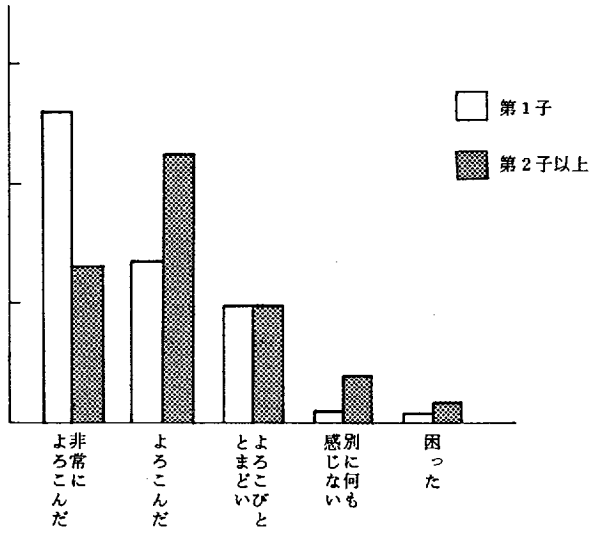

図3　妊娠とわかったときの気持 ····· 父親

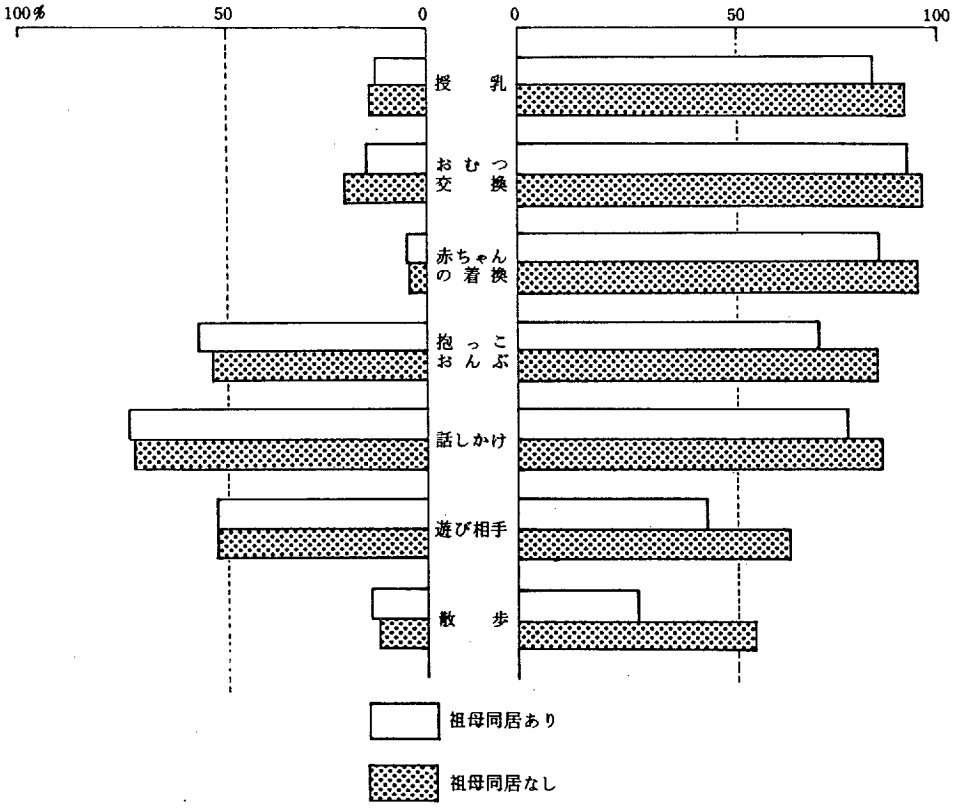

図4　朝の育児（複数回答）

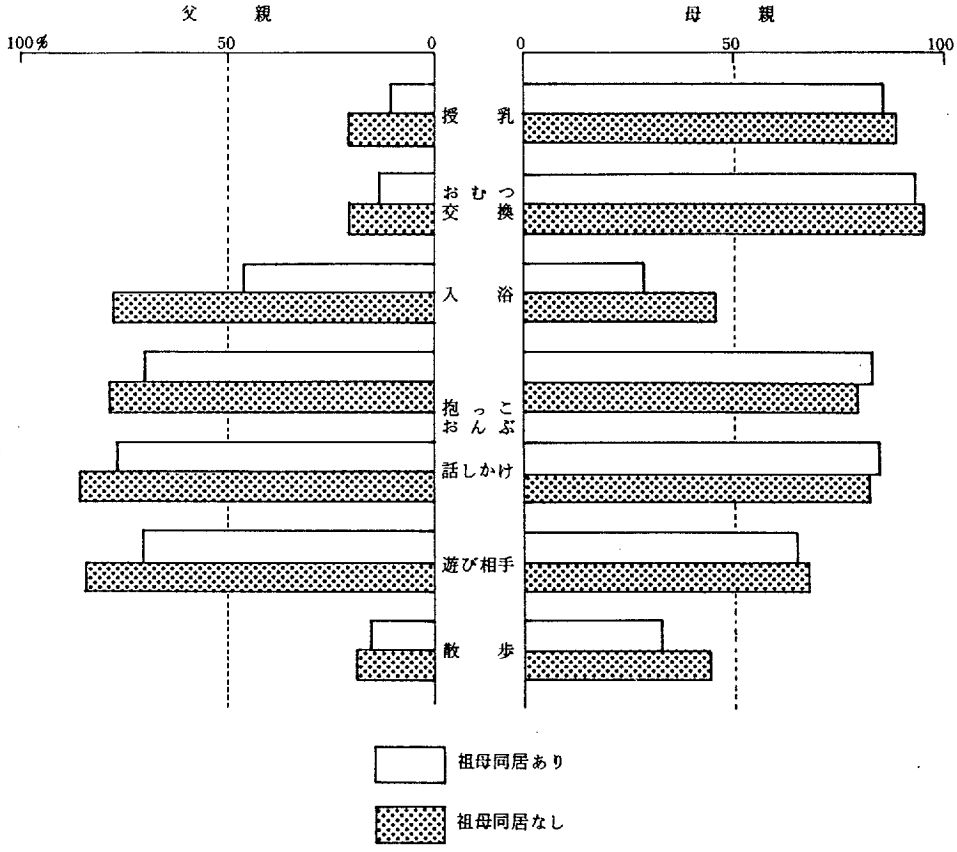

図５　夕方の育児（複数回答）

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

まとめ

農村における育児に関するアンケート調査を 3 年間にわたり実施したが,その全貌が明らかになった。母子相互作用研究班に参加し,調査結果にもとづき検討会をもち,それを地域に還元してきた。その効果をみる時は,母子保健の統計上の数値には表われないが,母と子の絆,心のふれあい,愛着行動を合いことばとして私共は推進してきた。母子保健推進員活動目標に,従来の 3 目標に加えて,昭和 57 年度より「児の心をそだてよう」が加えられたのも成果の一つである。

これからは,3 年間の資料をもとに広く地域の人々に実態を知らせ,問題意識をもってもらい,地域全体で考えるよう努力していくつもりである。